

研究員 の眼

エンタメ狂の独り言

[速報] ザ・シンプソンズ ディズニーの祭典に登場決定

生活研究部 研究員 廣瀬 涼

(03)3512-1776 hirose@nli-research.co.jp

D23 という名前を聞いたことがあるだろうか。D23 は、ウォルト・ディズニーがハリウッドに映画会社を設立した 1923 年にちなんで名づけられた世界最大のディズニー公式ファンクラブである。当ファンクラブは会員制であり、年間を通じて会報やグッズが送られてきたり、特別なイベントに参加する権利を得ることが出来る。2 年に 1 度「D23 EXPO」と称してディズニー関連最大のイベントがあり、アメリカ・アナハイムで 3 日間開催される。そこでは、今後計画されている映画やアニメ、テーマパークを含めたプロジェクトが発表される。まさに、ディズニーの描く未来をファンと共有するイベントと言えるだろう。筆者も筋金入りのディズニーファンで、過去に参加経験もあり、今年開かれる「D23 EXPO 2019」にも取材に行く予定である。

さて 2019 年 6 月 25 日、D23 公式ツイッターから以下のようなアナウンスがあった。

“JUST ANNOUNCED: The Simpsons Will make their #D23 Expo debut with a special presentation and convention floor appearances.”

アメリカの人気アニメ『ザ・シンプソンズ』が D23 EXPO 2019 に登場することが決まった、という発表である。『ザ・シンプソンズ』については、「CC レモン」の CM に出演していた黄色い人間のキャラクターが出る番組といえば想起できる人も多いのではないだろうか。日本では、なじみが薄いかもしれないが、アメリカアニメ史上最長寿番組であり、現在は 60 か国以上で 20 か国語に翻訳され、全世界で毎週 6000 万人以上が視聴している。このザ・シンプソンズがディズニーのイベントに姿を現すという事で、恐らくコンテンツ業界に激震が走るだろう。

この背景には、2017 年 12 月、ウォルト・ディズニー・カンパニーによる 21 世紀フォックスの映像製作事業、ケーブル放送事業、映像配信サービス事業の買収発表があった。ディズニーは過去にも、2009 年には、世界中で大ヒットした『アベンジャーズ』を始めとした MCU シリーズを有する「マーベル・エンターテインメント」を 4 億ドルで買収し、さらに、2012 年には『スターウォーズ』『インディージョーンズ』を制作した「ルーカス・フィルム」を 40 億 5 千万ドルで買収している。今回買収発表した 21 世紀フォックス（20 世紀フォックス）と言え、ウォルト・ディズニー・カンパニー、

ソニー・ピクチャーズ・エンターテインメント、パラマウント、ユニバーサル・スタジオ、ワーナー・ブラザーズ・エンターテインメントに並ぶ6大映画ブランドとして『タイタニック』、『ホームアローン』、『プレデター』『アバター』など日本でも馴染み深い映画を配給していた。そして、今回2019年3月20日、ディズニーは、713億ドルを投じ²、フォックスの映画・テレビ部門を手に入れた。

この買収成功によって、テレビ部門の看板番組とも言える『ザ・シンプソンズ』もディズニーファミリーになったわけである。これに伴い公式サイトトップページには『ザ・シンプソンズ』も載せられている。さて、当キャラクターがD23 EXPOというディズニーの今後の明暗を占う祭典に登場することは何を意味しているのか。当番組は、アメリカの中流階級（労働者階級）の生活・文化および社会状況を風刺的かつ強調して描き出したものであり、下品な言葉や暴力、性的な話題を含むなど、内容によっては視聴年齢制限指定がつくこともある。家庭によっては『ザ・シンプソンズ』を見ることを禁ずるケースもあり、買収完了当初から下品な作風の本シリーズをディズニーの傘下に入れるなど、ディズニー傘下となるのであれば、これまでとは異なった制限をかけろ、といった意見も出ていた。ディズニーは、クリーンなイメージを大事にしており、子供に安心して見せることが出来るコンテンツである、というのが一般的認識だろう。ディズニーにとっては、つつかれたくない点であり、筆者自身は、ディズニーブランドに「ザ・シンプソンズ」のイメージを極力つけない戦略をとることを予想していたが、実際にD23 EXPOでのプレゼンテーションが企画されているところを見ると、当作品は本当の意味で「ディズニー」になったといえるだろう。

さて、今回の事業買収によって、フォックスが持っていた『X-MEN』『ファンタスティック・フォー』などのマーベルコミックスの権利がディズニーに移ることで、『デッドプール』もディズニーの傘下に入る事となる。『デッドプール』は過激すぎる暴力的なシーンや下品なジョークによりR指定（17歳未満は保護者同伴が必要）を受けているが、アメリカ史上「R指定映画で最も売れた作品」³という記録をつくっている。ファミリーフレンドリーを大事にするディズニーは、R指定の作品を製作する気がないことを過去に明言していた⁴。しかし、ディズニーの会長兼最高経営責任者（CEO）のボブ・アイガー氏は

“It [Deadpool] clearly has been and will be Marvel branded. But we think there might be an opportunity for a Marvel-R brand for something like Deadpool.”⁵

（訳：デッドプールのようなR指定映画を作るのもいい機会である。）

と発言しており、ディズニーが実際にどれだけこれまでのディズニーから逸脱できるか、大変興味深いところである。

なにはともあれ、今回のD23 Expo 2019において何らかの『ザ・シンプソンズ』に関する“D’oh”（主人公の決まり文句）が聞けることを、筆者は大変楽しみにしている。

¹ D23 公式ツイッター <https://twitter.com/DisneyD23/status/1143202164900106241> 2019/06/25

² ディズニー、8兆円でフォックス買収へ 競合相手が断念
<https://www.asahi.com/articles/ASL7M7F5PL7MULFA03D.html> 2018/07/19

³ 『デッドプール』が“R指定で最も売れた作品”となった理由―善悪を超えたヒーローの革新性
<https://realound.jp/movie/2016/06/post-1888.html> 2016/06/07

⁴ ディズニー傘下に！デッドプールが自虐…クリエヴァ&ヒューも反応 <https://www.cinematoday.jp/news/N0097004>

2017/12/15

⁵ 'Deadpool' Can Stay R-Rated at Disney, Says Bob Iger

<https://www.hollywoodreporter.com/heat-vision/deadpool-will-stay-r-rated-fox-disney-merger-1067651> 2017/12/14